

▶ 第23回目となる今回は、山梨情報専門学校 情報システム科 2年 今井大さんが、株式会社 アイティードゥ 代表取締役 太田和彦氏 を取材しました。



経営者

株式会社 アイティードゥ
代表取締役
太田 和彦 氏

情報社会を支える ITインフラ

学生



山梨情報専門学校
情報システム科

2年 今井 大 さん

▶ **学生** 会社概要と事業内容についてお聞かせください。

▶ **経営者**

弊社は、幅広いIT分野の中で、ネットワークとサーバーなど情報ネットワークのインフラを主に手がけています。

主な事業分野は三つあり、1つ目は、自治体などに対するITインフラに関わるコンサルティング業務です。2つ目は、ITインフラの設計・構築および保守で、この分野が現在の主要な業務です。主な顧客は地方公共団体、大学や研究機関などです。3つ目は、IP電話関連事業です。そのなかでもAsteriskというオープンソースを使ったIP電話システムは、コンピュータ利用促進協同組合(CCP)として東宝シネマズの全国の映画館を繋ぐ電話網を構築しました。

▶ **学生** 御社が求める人物像をお聞かせください。

▶ **経営者**

弊社では、実際に現場に出て仕事をするメンバー、それをまとめるチームリーダー、全体の責任を持つプロジェクトマネージャー、会社全体をまとめているマネージャーと、大きく分けて4つの人材で構成されており、社員が段階的により上位の役割を担えるよう成長できる組織を作っています。

その中で、ひとりひとりの社員がプロフェッショナルとして、①様々な状況でセルフコントロールができる ②コミュニケーション能力 ③知識や考える力がある ④将来どのようになりたいのかのイメージを持つ ⑤自分で行動を起こすことができる ⑥継続的に成果を出し続けられる、という点で人材を評価しています。

こうした能力全てを社会人になりたての皆さんに求めるのは難しいと思っています。仕事を自分のことだと思って打ち込むことができ、実際に行動に移せる人が、大きく成長して結果も残せると今まで多くの人を採用し育成してきた中で感じています。

▶ **学生** CCP(コンピュータ利用促進協同組合)設立の背景についてお聞かせください。

▶ **経営者**

CCPは山梨にある小さなコンピュータ関係の会社が集まって出来た組合です。

組合に所属している会社はITという共通項をもっていますが、ソフトウェア開発会社、ホームページ作成会社、弊社のようにITインフラの構築をやっている会社、と様々です。

組合ができた背景には、例えば行政が大規模なITシステム構築を入札公募する場合、個々の会社ではシステムの一部分

はできても全体の構築は無理なため入札に参加できないというケースがありました。組合として複数の会社がそれぞれの得意分野を分担し組織として一体となることで、より幅広い仕事の受注ができます。これがCCPの出来た背景です。

▶ **学生** 御社の将来の展望をお聞かせください。

▶ **経営者**

弊社は、まだ小さな会社ですが、これまでの実績から、日本全国から仕事の依頼が来るようになってきました。

将来展望は、弊社の持っている高度な技術と経験を活かし、技術者を育て、チームとして高度なシステムの設計、構築ができることを目指しています。そのためには、技術的なこと以外に、人を育てる組織や仕組みが必要だと思っています。創業以来、そのような観点から社内の仕組み作りを行ってききましたが、今後はそれを更に進めます。

取材を終えて…

私の興味のあるIT分野の経営者からお話を伺えたのは、とても貴重で良い経験となりました。起業してから今に至るまでの苦労話、組合ができた背景、企業が今後どういうことに取り組んでいくのかなど、経営者から率直な話を聞くことは会社に入ってからではなかなかできることはありませんので、得難い一生の経験にもなりました。この記事を見た学生の方もこういった機会があるのなら積極的にトライしてもらいたいと思います。

経営者インタビューの機会を設けてくれた中央会のスタッフの方、お忙しい中インタビューを受けてくださった太田社長さん、本当にありがとうございました。

今回のインタビューで学んだことを、これからの就職活動で活かし実践して行こうと思います。

